

「女性鑑定人意見交換会」開催

女性鑑定人活躍の環境確保のために議論

日本損害鑑定協会

日本損害鑑定協会は5月24日、東京都千代田区の損保会館で「女性鑑定人意見交換会」を開催した。同意見交換会は、現場調査活動を行う鑑定人にとって、女性の働きやすさ、女性が長く活躍できる環境を確保することの重要性が近年特に増してきていることを受け、同協会が立ち上げた「女性鑑定人活躍推進ワーキンググループ」主体で行われた。当日の模様はウェブでも協会員下に配信され、会場22人、ウェブ26人の合計48人と、同協会会員下の半数近くの女性鑑定人が参加し、活発に意見を交わした。

2022年8月に、同人意見交換会はその中から生まれた取り組みで、同WGが主導で行うものとしては初のイベントとなる。

意見交換会当日は、WGのメンバーが「先輩鑑定人の経験談」と題して二つのセッションに分かれて登壇し、議論を交わした。

東京損保鑑定の上島さおり氏、(株)中央損保鑑定の新作美和氏、(株)山貴総合鑑定(株)の町田玲奈氏が登壇し、「出産・育児と仕事の両立」などをテーマに意見を交換した。まず、各鑑定人が現在の勤務時間や業務内容などを紹介した後、産前産後、育児休暇取得前後で働き

方がどう変わったか、配偶者との育児の負担はどうしているか、などについて意見を述べた。その中で若手女性鑑定人へのアドバイスとして、「長期休暇を経て職場復帰しても、それまでの事案を通じて得た知識や経験は自分の中でしっかりと残っていたので、安心してさまざまな経験を積んでほ



WGメンバーが参加者の前で自らの思いを語った

トラブル②退職したい気持ちを持ち乗り越えた方法③鑑定人の仕事の魅力といったテーマについて各鑑定人が意見を述べた。

①女性ならではの現場でのトラブルについては、「立会中に不適切と思われる契約者の発言があったり、連絡先の開示を迫られたりすることがあった」。「夏場の衣服1枚のみでの立会は避けたい方がいい」といった意見が挙がった。②退職したい気持ちを持ち越えた方法については、「はじめのうちは契約者から嫌味を言われて傷つくことも多か

WGメンバー「横のつながりつくれた」と手応え

「駐在先の保険会社には出産・育児を経験されている方もいらっしやる。そういう方と一人でも多く出会えると働きやすくなる」といった言葉が送られた。

セッション2では、(株)三和鑑定事務所の末弘裕子氏、(株)高本損害鑑定事

務所の中島有美氏、西日本鑑定(株)の上本梨津子氏、(株)アスカ総合鑑定の水谷桂子氏が登壇し、①女性ならではの現場での

された。③鑑定人の仕事の魅力については「特に広域災害などでは他社の鑑定人とお会いすることが多く、そこでいろいろな考え方を学べて面白い」「性別・年齢関係なく活躍できる点」「ワーキングバランスが取りやすい」などの魅力が語られた。

その後、第二部では会場参加の女性鑑定人だけで行う座談会を実施し、初開催となった「意見交換会」は幕を閉じた。

同WGの町田氏は弊紙の取材に応じ、「各社で女性鑑定人が数人ずついる中、これまで横のつながりというのは少なかつたが、協会としてWGを立ち上げ、会社の垣根を越えたつながりをつくれたことはとても有意義だと思っっている」と述べた上で、これからの意見交換会を定期的に開催して

いきたいと意欲を示した。

意見交換会の担当理事の一人である田中公成氏は、「当WGは比較的にイフステージの異なるメンバーで構成されているため、同じテーマでもいろいろな立場の人から話が聞けたことは、参加者にとってメリットが多かったのではないかと振り返った。

また、同じく同協合理事で、同WGを傘下に持つ総合企画委員長の高本吉孝氏は、「保険会社から『諸事情から女性契約者の要望で鑑定は女性でお願いしたい』と依頼されることもあり、女性鑑定人の確保は各方面から求められていると感じる。業界を挙げて、女性が活躍できる環境づくりには一層注力していく必要がある」とコメントした。